

学校教育目標	○ 進んで学習し、ねばり強く課題に取り組む子どもをそだてます。			
	○ 礼儀やきまりを大切に、互いのよさを認め合い、周りの人と豊かに関わる子どもを育てます。			
	○ 自他の命を大切にして、心と体を鍛え、進んで健康づくりに取り組む子どもを育てます。			
	○ まちを愛し、様々な関わりの中で生き方を学び、自分ができることを進んで実践する子どもを育てます。			
	○ いろいろな人とのコミュニケーションを通して、違いや共通点を理解し、視野を広げられる子どもを育てます。			

学校概要	創立 114 周年	学校長 金子正人	副校長 松永史郎	2 学期制	一般学級: 23	個別支援学級: 4
	児童生徒数: 730 人	主な関係校: 横浜吉田中学校 共進中学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本をもとによりよく問題を解決する力 自分を大切にし他者と共に生きる力 心身ともに健やかに生きる力 地域や社会のために他者と協働する力 多様性を尊重し共生する力 	横浜吉田中学校 本町小学校 みなとみらい本町小学校 東小学校	自ら生きる力を養い、認め合い、協働共生し、自らを律し、みらいを切り拓き、横浜に学び、社会に貢献できる子ども ○授業参観、情報交換会、合同研究会等を実施し子ども観の共有を図り、連続性のある指導ができるようにする。 ○児童・生徒の情報交換を通して、課題の背景を共通理解し一貫性のある対応ができるようにする。 ○まちの人との交流やまちの行事に参加を促し、まちとのつながりを実感するとともに、児童・生徒間交流の機会を充実させていく。

中期取組目標	「多様性を尊重し、人やまちとのつながりを大切に作る学校にします」 ・学ぶ楽しさを感じながら、あきらめずにねばり強く学ぶことができるようになります。 ・自分だけでなく、友達もかけがえのない存在として尊重できるようにします。 ・健康や安全に対する関心を高め、よりよい生活習慣や運動習慣を形成できるようにします。 ・まちとのつながりを大切に、まちの一員としての自覚をもち、愛着をもてるようになります。 ・障害の有無、国籍や文化の違い等を超えて、互いの良さを認め合えるようになります。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①本の読み聞かせや音読、MY漢字・計算検定の取組等を通して読書や学習習慣を確立し基礎・基本を習得するとともに、身に付けた知識や技能を使って考える力をはたらかせて、粘り強く課題を解決していく力を育む。②体験的で協働的な活動を大切に、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育む。
豊かな心	①自分をかけがえのない存在として大切にするとともに、他者を尊重できる心を育む。②ペア学年活動、特設クラブ、幼保小交流等異学年交流を充実させることで、自分を律し、相手を思いやって行動できる優しさを育む。③積極的に周りに相談したり、助けを求めて困難を乗り越えたりできるような、しなやかに生きる力を育む。
健やかな体	①「早寝・早起き・朝ごはん」とあいさつ運動など家庭とも連携して望ましい生活習慣を身に付けるとともに、学校保健委員会での防止に取組み健康や安全への意識を高める。②体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで運動やスポーツを行い、心身ともにたくましく生きる力を育む。
児童指導	①「南吉田小学校スタンダード」を共有しルールや約束事の定着を図る。②児童指導全体会を開催し児童理解を図り、必要な指導や支援が全職員体制で行えるようにする。③児童相談所、区役所、警察等関係機関との連携を緊密にとるとともに、学校カウンセラーを活用し家庭でも学校でも子どもが安心して過ごせる環境を教える。
特別支援教育	①個別支援学級と一般学級の連携で、個に応じた支援の充実を図る。②国際教室・日本語教室と一般学級の連携を充実させ、授業のユニバーサル化を進める。③障害の有無、国籍や文化の違い等に関わらず、お互いの人権や尊厳を大切にできる心を育む。④特別支援教室を活用し、困難を抱える児童の支援を行う。
地域連携	①地域行事への参加や、「まちの先生」から地域社会とのつながりを学ぶ機会を通して、まちの魅力を発見し愛着をもてるようにする。②「地域清掃」「ハマロードサポーター」「地域防災訓練」等の活動を通して、まちの一員として自分ができることを考え、実践できる力を育てる。
豊かな人間関係(多文化共生)	①つながる遊び、ワールドランチ、母語教室等を通して、外国人児童の国や文化を知り、自他の違いを受け止めながら、価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図り、共に生きていく力を育む。②外国人児童のアイデンティティを確保し自尊心を高める。③日本人保護者と外国人保護者が交流する機会を設けし人間関係を築いていく。
a15	
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会を設置し、管理職、担任、児童支援専任、養護教諭等を中心として全職員で組織的に対応する。②アンケートや教育相談等を実施し人間関係に起因するトラブルや悩みを定期的に把握しいじめの未然防止と解消に努める。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが人材育成に関与する研修を定期的開催する。②教務会、主任研修等を実施し学校運営に参画する意識を高める。③業務改善を図るとともに、教職員が働きがいを感じながら心身ともに健康でいきいきと働くことができる職場環境の整備を行う。